

2019年1月18日

～ふるさと福島の発展を祈って～

在仙福島県人会  
『創立100周年記念』  
式典パンフレット 広告ご協賛のお願い

在仙福島県人会 会長 高橋 治  
創立100周年実行委員長 佐藤 昌利  
※公印省略

謹啓 益々のご清栄のことと心よりお慶び申し上げます。

さて、福島県出身者が仙台で活躍をしている方を対象に組織している「在仙福島県人会」は、大正8年の創立以来、2019年（平成31年）に「創立100周年」の節目の年を迎える運びとなりました。

発足以来、たゆまぬ努力により、第二のふるさと仙台の発展に貢献するとともに、今日までふるさと福島への思いを受け継いで参りました。

当会では、この機を捉え「創立100周年記念式典」を開催します。当日は、これまでの概要などを盛り込んだ記念パンフレットを作成し、出席者および関係者の皆様へ配布いたします。

つきましては、式典パンフレットへ広告のご協賛を賜り、露出・PRをすることで今後の新たなる発展に寄与していただきますようお願いいたします。

敬 具

記

◇式典開催日：2019年（平成31年）10月5日（土）

◇会 場： ホテル 白 萩  
仙台市青葉区錦町 2-2-19 (022) 265-3411

◇配布先：「在仙県人会創立100周年」記念式典会場内

◇配布部数：500部 【出席者および関係者】

◇体 裁：10ページ ※予定

◇広告料金&スペース：別紙ご参照ください。

A4(297mm×210mm)

広告 A4 サイズ

縦287mm×横200mm

40,000円(税込)

A4 (297mm×210mm)

広告 A4 1/2

縦141.175mm×横200mm  
20,000円(税込)

A4 (297mm×210mm)

広告 A4 1/4

縦141.175mm×横97.675mm

10,000円(税込)

# 在仙福島県人会創立100周年記念式典について

平成30年12月13日

100周年実行委員会

## 1 在仙福島県人会の概要

本会は、大正8年（1919年）10月、宮城県内に在住していた福島県出身者により、設立され、戦前は陸軍に入営する福島県人のための慰問、物品の贈呈や、各種団体の来仙の際には、宿舎の手配、応援、宿舎を訪問しての激励、慰問を行っていた。

戦後は、昭和27年10月、福島宮城共同開催の国民体育大会での各種支援活動を始め、年数回の総会のほか、福島県内各地への郷土訪問、全国植樹祭での支援、近年ではふくしま国体に対する寄付など福島、宮城両県の交流を通じた地域社会づくりに貢献している。

## 2 積極的な活動から今日まで

平成6年の75周年までの節目の年には、記念式典を始め記念誌の発行（60年史、75年史）、会員名簿の作成、福島県に対する寄付など様々な活動を行っていた。

特に、昭和40年代から60年代、丸光社長の今泉清会長時代には、両県知事も出席し、500人を超える会員で丸光の食堂を会場に盛大な総会を年2回開催したほか、創立60周年記念式典、記念植樹、新年名刺交換会、知事、関係首長表敬訪問、福島県内各地への郷土訪問、猪苗代町で開催された全国植樹祭などへの参加など積極的な事業展開を行ってきた。

平成17年10月開催の総会において、現高橋治会長（社会福祉法人仙台ビーナス会会長）が選出され、事務局を仙台ビーナス会に設置することとなり、年1回の総会や相馬野馬追見学などの郷土訪問を行い、活動を続けている。東日本大震災後の平成24年11月の総会では、南相馬市、浪江町からの避難者による現状報告などを伺うとともに、平成25年2月には、「東北ろっけんパーク」において福島県の観光PR活動を行った。

### 3 100周年記念式典及び祝賀会について

#### (1) 開催の趣旨

在仙福島県人会の100年の歩みに思いを寄せ、先人たちのご労苦に感謝するとともに、東日本大震災で甚大な被害を受けたふるさと福島の復興を祈念する式典とする。

#### (2) 開催日時

平成31年10月5日(土) 午後2時から5時

#### (3) 開催場所

「ホテル白萩」 〒980-0012 仙台市青葉区錦町2-2-19 Tel 022(265)3411

#### (4) 来賓招待者

福島県知事、宮城県知事、仙台市長、相馬市長(全国市長会会長)、東邦銀行、福島銀行、福島民報社、福島民友新聞社、在仙福島県テレビ局等々(検討中)

#### (5) 構成案

14:00～百周年記念式典

会長あいさつ

感謝状贈呈

祝辞 福島県知事、宮城県知事、仙台市長、相馬市長(全国市長会会長)

福島県行政担当部局から復興状況の講話(30分程度)

15:00～祝賀会

会長あいさつ

乾杯

#### (6) 参加者見込み

最低でも100周年を祝うために、100名以上を確保する。